

重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)	安心して地域で子どもをのびのびと育てられる	
施策名	子どもを安心して育てられる安全な地域環境をつくる	No.23

年度	平成27年度
責任部長	企画部長
主担当課長	地域ふれあい課長
関係課	維持課・治水課・学校教育課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値		実績値				目標値	
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後	10年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29		
地域で子どもたちの安全が見守られていると思う人の割合(%)	→	52.7 62.4	54.0 63.6	59.5 65.2	59.5 66.8	60.4	62.4	60.4 67.5	
子どもの犯罪被害者数(人)	→	455 250	405 244	373 164	435 181	294	250	383 323	
子どもの交通事故被害者数(人)	→	320 270	344 259	298 291	291 233	304	270	254 200	
子ども110番の家や防犯パトロールなどの子どもの防犯活動に協力している人の数	①子ども110番の家の登録数(軒) ②子どもの見守り活動をしている団体数(団体)	6,488	8,923	9,990	7,188	7,248	6,844	7,552	
		6,844	7,199	6,857	7,042			9,990	
		—	—	—	—	—	—	—	
		104	107	107	107			114	

2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

近年、通学団の列に車が突っ込んだり、子どもが襲われたり連れ去られるといった予測しない事故が発生しており、子どもの見守りが必要とされてきている。また、ハード面でも道路や水路において歩道の整備やフェンスを設置等で子どもの安全を目指している。ソフト面では児童生徒及び教職員・保護者に対してもセルフディフェンス講座等の実施が行われている。

3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

現状評価	A	地域で子どもたちの安全が見守られていると思う人の割合は順調に推移し、子どもの犯罪被害者数は微増したものの目標値を達成している。子どもの交通事故被害者数も減少し、子ども110番の家の登録数は増加と順調に推移しているため改善傾向にあるといえる。
	改善傾向	



4. 事務事業群に対する評価(行政活動の評価)

長期成果(事業群①)	長期成果(事業群②)	長期成果(事業群③)	長期成果(事業群④)

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一手手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	
次年度の改善計画	

 総合計画推進市民会議による現状評価(※総合計画推進市民会議が発表した「重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の評価書」から転記)

評価	B	指標1・指標2・指標3はいずれも改善傾向である。指標4は目標値との乖離が大きく、地域の子どもに対する大人の関心の足りなさを感じる。
	停滞	